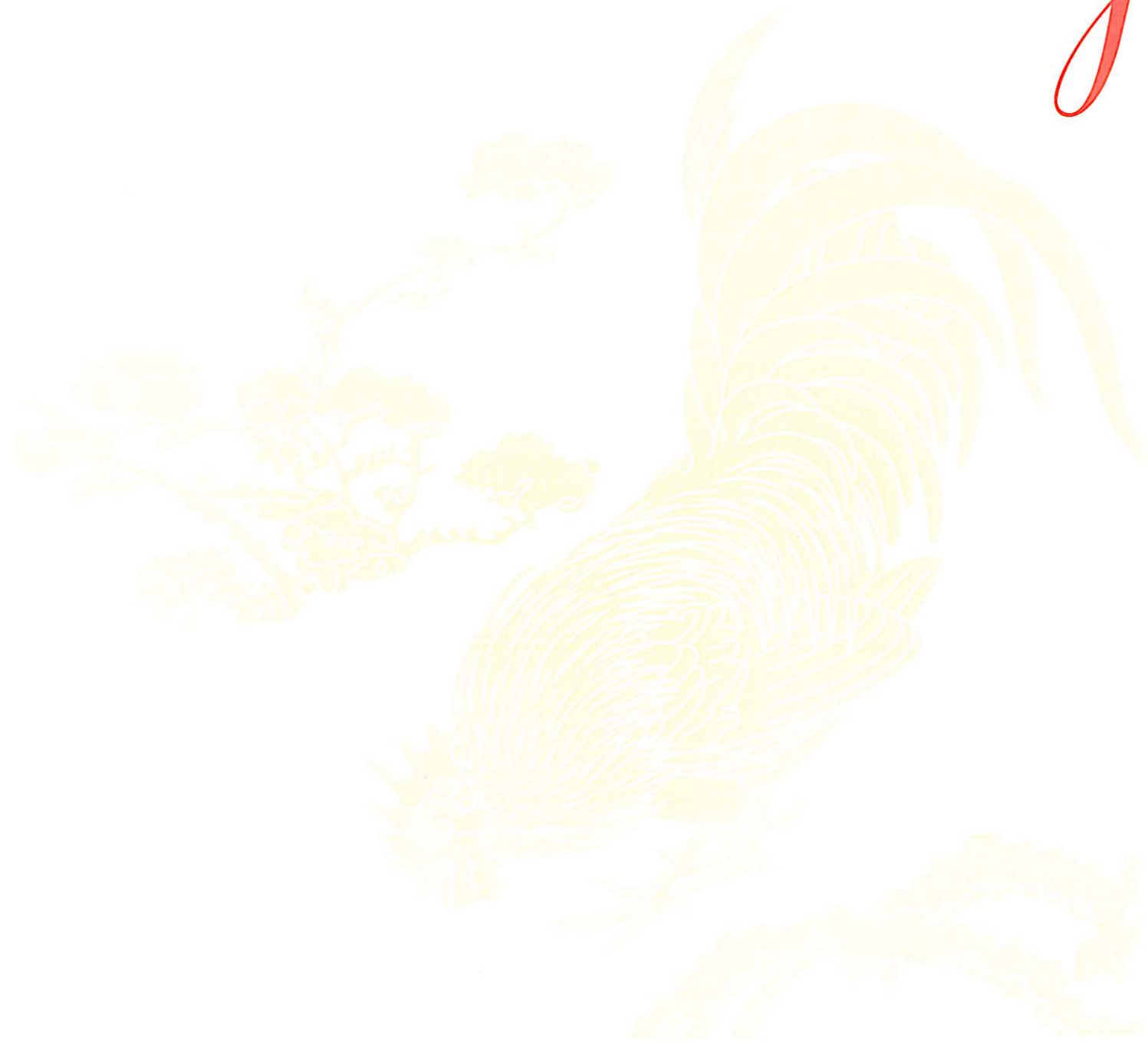


Autumn, Winter 2005
Volume 5

Club Concierge



ニッポンの贅と美

クリニック デュボワが提案する「今、人生に一番大切なもの」



いつまでも、 笑顔。

クリニック デュボワ院長
歯学博士 **中原悦夫**
インタビュー

保険医療を廃し独自の哲学と経営を實踐するクリニック デュボワ。揺るぎない信念のもとで語られる理想の医療。そしてそれは、私たちの豊かさと幸福な生活へと繋がっていく。今一番大切なもの。健康、そしていつまでも笑顔。

●なかはらえつお
1959年山口県生まれ。日本歯科大学卒業後、米國タフツ大学を基点にボストン大、テキサス大、ペンシルバニア大、UCLAを歴訪、審美歯科およびそのマーケティングを学ぶ。93年にアメリカ美容歯科学会で日本人初の認定会員となる。1989年協立歯科として開業、2003年には帝国ホテルの誘致によりクリニック デュボワとして現在に至る。

撮影/大沢つよし

デンタル・エステティック



デュボワのスタッフにはいつも笑顔が溢れ、雰囲気はとても家庭的で温かい...

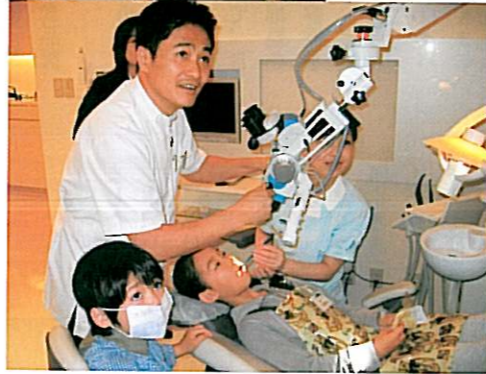
朝十時から一人の患者を夜七時半まで集中治療した後のこの笑顔である。院長はじめ、スタッフも疲労困憊、のはずだ。「作れといって作れる笑顔じゃないですよ。みんなデュボワを愛してくれているし、この仕事にやりがいを感じている」クリニック・デュボワの院長であり、歯学博士である中原悦夫氏にインタビューしたのは、冒頭の患者の治療が終わった後、夜の九時近くからとなった。「歯医者って痛い、怖いっていうイメージがあるでしょう？ みんな痛くてどうしようもなくなるから歯医者に行く。痛

くて辛そうだから痛みをとってあげる。悪いところを直す。僕が理想としている医療は違うんですね。痛くならないようにする。悪くならないように予防する」クリニック デュボワには、健康な時にこそ通ってほしい。健康な時に、人生にとって、自分にとって本当に大切なものは何か、ぜひ中原院長と語り合ってみてほしい。そんなクリニックがあつていい。「僕はもともと予防医療がやりたかったんです。悪い歯を治すのは対処でしか

「たとえ僕がいなくなっても
10年後も100年後も
デュボワの
哲学フィロソフィは
残さなければならない」



世界の子供服マ・メールとの共同企画、ボランティアで行なった子供たちのための「一日歯医者さん」。院長自ら童心に戻り、スタッフの目が活き活きと輝いた。この中から未来のデンティストが何人誕生し、デュボワのフィロソフィを受け継いでいくのか



いし、何十万もかけて義歯を入れるより、同じお金をかけて一生自分の歯を健康に保つほうがいいですよ」豊かさは、幸福な生活とは何か？このことを真に理解している日本人が一体どれほどいるのだろうか。お金をかけたために、お金をかける。矛盾しているだろうか。今やなくなってもすむことに投資できる人間は数少ない。「それができると、価値観が変わってくるんでしょね」悪くなったから医者に行く、では語弊を恐れずいうならば、まるで便利屋のようなものだ。医療はそ

うであつてはならない。中原院長の理想は崇高だ。求めている理想は高い。「自分が納得できる医療、治療はあくまでも一生自分の歯で笑い、食べることを。これを実現させるために、今のデュボワのスタイルにたどり着いたんです」

クリニック デュボワが行なっているボランティア活動も、十年後いや百年後の医療の理想を見据えている。「中原がいなければ存続しない組織じゃだめなんです。デュボワのフィロソフィは僕がいなくなっても残っていかなければならないし、健康で幸福な生活の在り方は、いつの時代でも一緒ですから」

富裕層とかセレブリティという言葉が流行として氾濫する現代にあつて、真の豊かさは、健全な暮らしを实践することだという。

「富裕層というか高意識層ですよ。自分の健康に対してのプライオリティを真剣に考えられる人。そういう人たちが増えてほしいし、デュボワに来てほしい。病気を治すことよりも、病気になる生活が大事。一緒に考えましょう」いつまでも、笑顔でいること。実現したいと思いませんか？

「富裕層ではなくて高意識層。
人生のプライオリティを真剣に
考えられる人たちが、
もつともっと増えていけば
日本人の豊かさが変わっていくはず」